

# 第1章 3年間の研究について

## I 全校研究テーマ

知的障害のある児童生徒の質の高い学びを実現するために必要な学習指導と評価の在り方  
～各教科等を合わせた指導の横断的・段階的なつながりを意識して～

## II 研究テーマ設定の理由

本校は知的障害、病弱のある児童生徒を対象とした学校で、児童生徒270名が在籍している。障害種や障害の状態が多様な児童生徒の個々の教育的ニーズを踏まえ、学校教育目標「子どもが豊かに育つ教育 世の中を優しくする学校」を目指して、教育課程を編成し、授業実践をしている。

本校は平成29年度より文部科学省の「特別支援教育に関する実践研究事業（新学習指導要領に向けた実践研究）」（3年計画）の指定を受け、今年度は3年目の取組となる。

1年目は、学習指導要領の改訂や社会の変化、児童生徒の実態に合わせ、小学部・中学部・高等部で一貫した教育をするための学習指導とその評価をどのようにしていくか、ということを経験が意識し、よりよい教育実践の方向性を模索した。研究テーマの「知的障害のある児童生徒の質の高い学び」による具体的な児童生徒の姿は、学校教育目標の目指す児童生徒像の中の「すすんで学び、考え、行動する子」と捉え、その育成を目指して研究に取り組むことにした。

2年目は、質の高い学びの実現を目指した学習指導をするためのツールとして単元記録表、評価の在り方を探るためのツールとして評価表を作成した。2年目の研究の成果として、

- ① 各教科等を合わせた指導に関連する各教科等の内容の明確化（単元記録表の作成・記録）
- ② 一人一人の児童生徒につけたい力を意識した評価の観点の明確化（評価表の作成・記録）

が挙げられる。これらの実践記録が授業づくりにもつながり、一人一人の実態に合った支援や手立てが工夫され、児童生徒が主体的に活動する姿を見ることができた。課題として、①においては、関連する各教科等の内容の精選と単元記録表を見やすく、使いやすくする必要があること、②においては、障害の特性や発達段階が異なる児童生徒一人一人に合った評価・活用ができるような改善が必要であることが挙げられた。授業研究においては、単元記録表、各学部の評価表との関連の検証が十分ではなかった、児童生徒の深い学びにつながる振り返りが必要であるという課題が挙げられた。

3年目となる今年度は、2年目の課題を踏まえ、単元記録表と評価表の改善・活用を図り、研究テーマ「知的障害のある児童生徒の質の高い学びを実現するために必要な学習指導と評価の在り方」の一例を発信できるようにした。本校は在籍する児童生徒が多いことから、教師数も多く、年度末の異動で教師が大きく入れ替わる。学部間の系統性や実践を記録する様式を用いることは、教師が変わっても、学校教育目標に向けて、継続した教育実践を進めていく上で重要である。以上のことから、3年目の研究で取り組むことは、

- ① 単元記録表の改善・活用と関連する各教科等の内容の精選（横断的なつながり）
- ② 学部間の系統性、関連する各教科等の内容を踏まえた評価表の改善・活用（段階的なつながり）
- ③ 主体的・対話的で深い学びの授業づくり

とした。

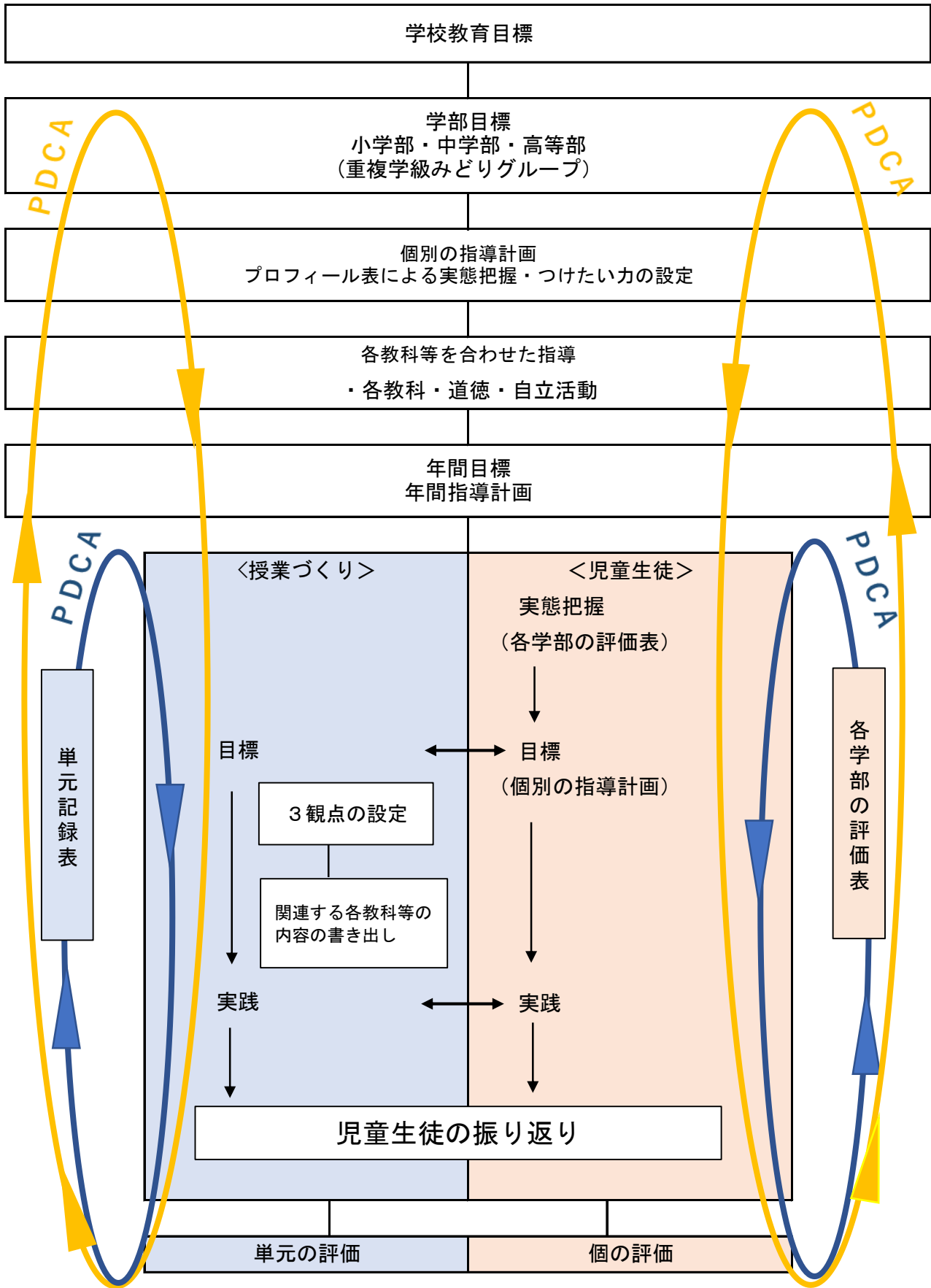
1年目、2年目の研究を踏まえながら、新学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」についても理解を深め、主体的・対話的で深い学びの視点をもって授業づくりに取り組んだ。単元記録表と評価表が授業づくりにどのように関連しているかを検証しながら、知的障害のある児童生徒の質の高い学びの実現を目指した。

### Ⅲ 研究の概要

文部科学省委託事業「特別支援教育に関する実践研究事業（新学習指導要領に向けた実践研究）」を平成29年度より受け、全校で取り組んできた。新学習指導要領の理解を深めながら、新学習指導要領をもとに各教科等を合わせた指導における学習指導と評価の在り方について、学部間の系統性を意識しながら、実践研究を進めた。

<p>1年目 (平成二十九年十月)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <b>育成を目指す資質・能力とこれからの各教科等を合わせた指導について</b> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p><b>&lt;研修会の実施&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害教育における各教科等を合わせた指導の現状と課題を知る。</li> <li>・新学習指導要領改訂のポイント、各教科等の段階的な目標・内容を知る。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p><b>&lt;評価の観点を設定&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科や各教科等を合わせた指導において、育成を目指す資質・能力の3つの柱を評価の観点として、授業実践、児童生徒の評価を行う。</li> </ul> </div> </div>
<p>2年目 (平成三十年年度)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <b>各教科等を合わせた指導の横断的なつながり・段階的なつながりを明らかにする</b> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p><b>&lt;関連する各教科等の内容の明確化&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元記録表に実践を記録し、各教科等を合わせた指導に関連する各教科等の内容を書き出す。振り返りや次単元で関連する各教科等の内容の見直しを図る。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p><b>&lt;評価表の作成&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部で学力の3要素を観点とした評価表を作成し、児童生徒につけたい力を明確にし、学部間のつながりを意識する。</li> </ul> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="font-size: 2em;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 60%;"> <p><b>&lt;授業研究&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元記録表、各学部の評価表がどのように授業づくりに生かされていたかを検証する。</li> </ul> </div> <div style="font-size: 2em;">➔</div> </div> </div>
<p>3年目 (令和元年度)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <b>各教科等を合わせた指導のPDCAサイクルによる授業づくり</b> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p><b>&lt;関連する各教科等の内容の精選&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の単元記録表を改善、活用しながら、関連する各教科等の内容の精選を行い、次単元に生かす。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p><b>&lt;評価の観点の系統性&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価表の改善を図り、観点別学習状況の評価の観点、各学部間のつながりを明確にする。</li> </ul> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="font-size: 2em;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 60%;"> <p><b>&lt;授業研究&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元記録表、各学部の評価表を活用して、主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくりを行う。</li> <li>・児童生徒の深い学びにつながる振り返りの在り方を探る。</li> </ul> </div> <div style="font-size: 2em;">➔</div> </div> </div>

IV 研究の構想図



## V 今年度（3年目）の取組

### 1 研究の目的

- 各教科等を合わせた指導のPDC Aサイクルによる授業づくりにより知的障害のある児童生徒の質の高い学びを実現する。
- ・質の高い学びに向けて、各教科等を合わせた指導において単元記録表を改善・活用して、関連する各教科等の内容の精選を図る。
- ・各教科等を合わせた指導において学部間の系統性を図りながら、一人一人の児童生徒につけたい力と関連する各教科等の内容を踏まえた評価の在り方を探る。

### 2 研究の仮説

各教科等を合わせた指導における各教科等の内容を精選し、一人一人の児童生徒につけたい力を明確にした評価の方法を見直すことにより、知的障害のある児童生徒の質の高い学び（すすんで学び、考え、行動する子）が実現するであろう。

### 3 研究の方法

#### ○単元記録表の改善・活用

- ・各教科等を合わせた指導において、小学部・中学部・高等部・みどりグループ※1（以下、各学部・グループ）で単元目標を3観点で立て、学習活動から関連する各教科等の内容を書き出しながら、学習活動や手立ての見直しをする。
- ・単元記録表によって書き出された関連する各教科等の内容を発達段階や学年、作業班ごとに分析し、共通点やグループ独自の点を明らかにして、関連する各教科等の内容の精選を図る。

#### ○評価表の改善・活用

- ・児童生徒につけたい力（観点別学習状況の評価の3観点と関連する各教科等の内容）を明確にした評価表を各学部・グループで作成する。
- ・作成した評価表を用いて児童生徒の実態把握・変容を記録・評価し、授業づくりや教材教具の改善に生かす。

#### ○授業研究

- ・授業研究会を各学部・グループで1回実施し、単元記録表、評価表を活用した授業づくりができていくか協議し、講師より指導を受ける。
- ・児童生徒の深い学びにつながる振り返りの在り方、方法を探りながら、主体的・対話的で深い学びの授業づくりを行う。

※1 みどりグループとは、知的障害と肢体不自由を併せ有する重複学級のことであり、小学部・中学部・高等部で系統性をもった教育課程を編成している。

## 4 実践

### ○単元記録表の改善・活用

各学部・グループで単元記録表の様式をもとに、単元について話し合い、関連する各教科等の内容を明確にし、目標や活動内容・具体的な支援について、共通理解を図ったり、アイデアを出し合ったりして、授業づくりを行い、単元終了後に評価をして、次単元の改善につなげた。

**表1 単元記録表**

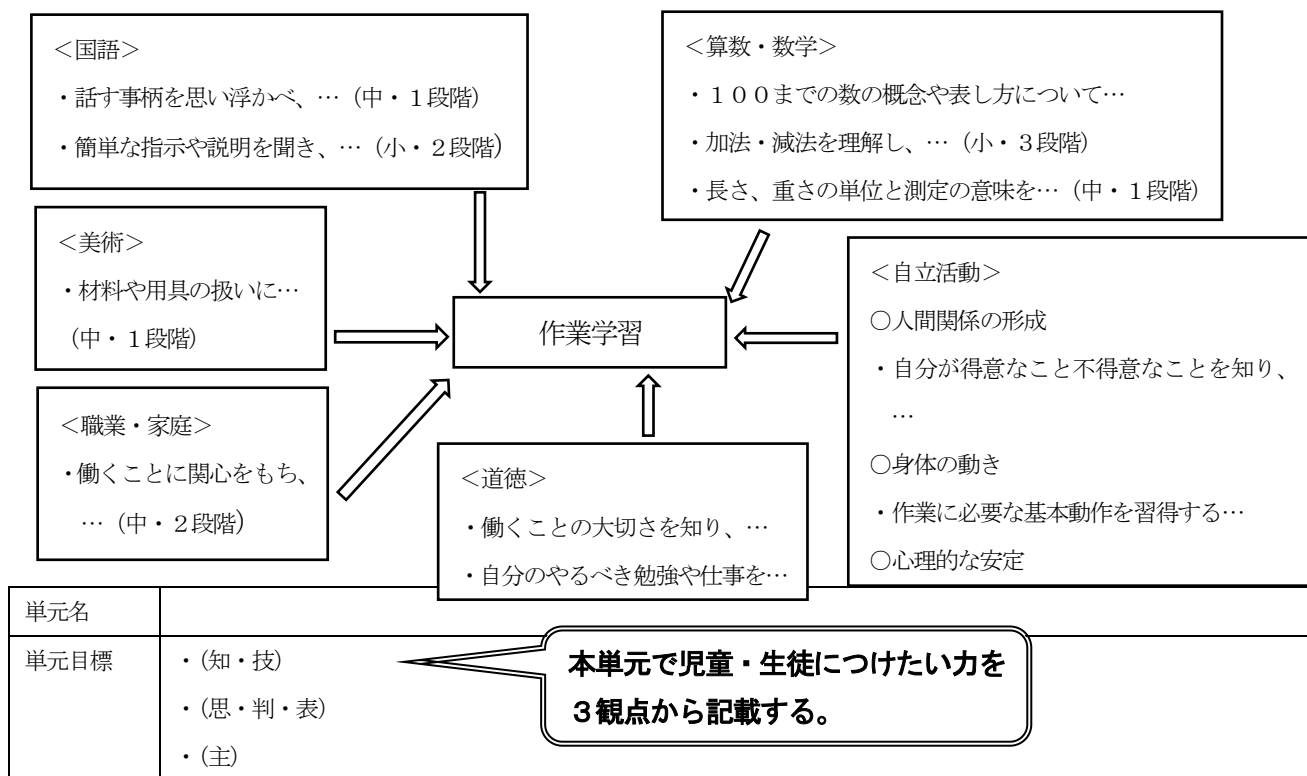
(例) 中学部 作業学習 単元記録表

学校教育目標	子どもが豊かに育つ教育 世の中を優しくする学校～夢を・みんなと・笑顔で～
めざす児童生徒像	○健康で元気な子 ○夢をかなえようとする子 ○思いやりのある心豊かな子 ○すすんで学び、考え、行動する子
中学部 学部目標	○体力の向上と健康の保持増進を図り、心身ともに健康な児童生徒を育てる。 ○身近自立を図り、目標に向かい、社会で活躍する児童生徒を育てる。 ○…

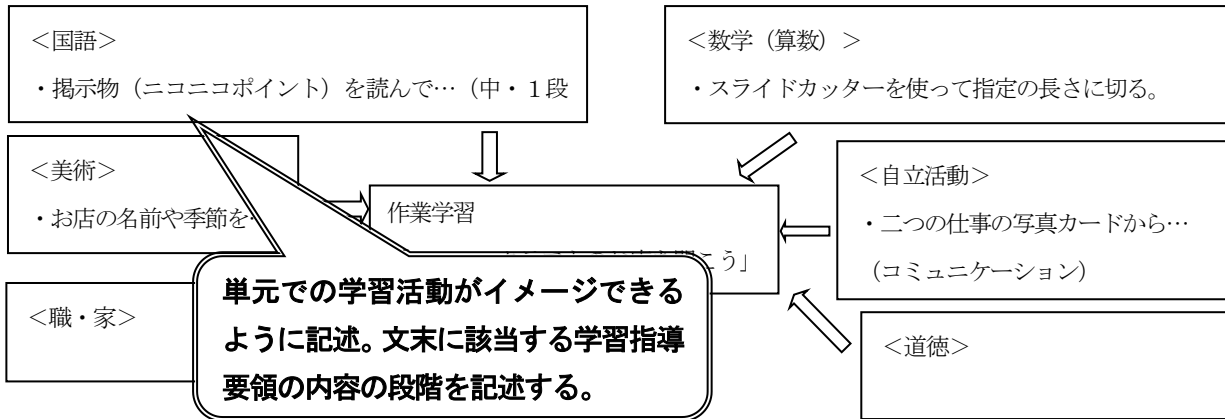
**学校教育目標を意識して年間目標を立てられるように  
学校教育目標→学部目標を記載する。**

作業学習 年間目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の作業内容を理解して、時間いっぱい製品作りに取り組むことができる。(知識・技能)</li> <li>・働く上での姿勢(挨拶、報告、相談等)を身につけ…(思考・判断・表現)</li> <li>・仲間や教師と協力し、物を作る楽しさや製品を完成させたり…(主体的に学習に取り組む態度)</li> </ul>
-----------	--

<各教科等の内容(学習指導要領の内容から抜粋)との関わり>



<単元と各教科等の内容との関わり>※児童生徒の学習活動から抜粋、学部・段階は学習指導要領の内容より



<主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり>

主体的な学び（興味・関心、見通し）	対話的な学び（やりとり、気持ちを伝える）
<ul style="list-style-type: none"> <li>クラフトテープの色を生徒が選ぶ。</li> <li>単元期間の計画表とカウントダウン日めくりを用意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラフトテープの色の組み合わせについて、グループの友達</li> </ul>
深い学び（知識を相互に関連づける、自己評価及び振り返り）	<p><b>児童・生徒の主体的・対話的で深い学びのために教師が意図した場面や手立てを記載する。</b></p> <p><b>「振り返り」の場面、時間を確保する。</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>販売会までの日程を知り、一日の目標数を計算したり、考えた</li> <li>振り返りシートで自己評価をし、明日の目標を記入する。</li> </ul>	

<学習の内容>

月	主な活動内容	関連する各教科等の内容

<評価>

○単元の振り返り

単元目標から振り返って評価する。「主体的・対話的で深い学び」の授業改善が関連する部分は、文末に**主 対 深**をつける。

○関連する各教科等の内容の単元における経過・変容

	関連する各教科等の内容	経過・変容
国語	・掲示物（ニコニコポイント）を読んで、報告の言葉遣いを確認する。（中・1段階）	・「挨拶」丁寧な言葉遣いで報告を意識できるように「ニコニコポイント」という班の約束を作り…
数・算	・100までの数の概念…。加法減法…。（小：算・知・技A数と計算3段階）	・個人出来高表高表を活用…
美術	・形や色彩、材料などの特徴について…（中：美術〔共通事項〕（ア）2段階）	・かご編みや箸…作ることができた。かごの形や…
職業	・作業課題が分かり、使用する道具…。（中：A職業生活②2段階）	・写真入りの手順表を用いることにより、生徒が…

単元と関連する各教科等の内容との関わりの中でも特に重点を置いた項目のみ記入する。

○次単元に向けて

上記話し合いのもと、次単元で改善を図る点を記載する。



## ○評価表の作成・改善

小学部・中学部・高等部は、アセスメントシートを作成した。様式を揃えることで、学部間の系統性がもてるようにした。一方で、児童生徒の実態や学部の特徴があり、より児童生徒の実態把握を深められる視点で各学部が作成したため、各学部の特徴が見られるアセスメントシートとなった。

中学部と高等部は作業学習におけるアセスメントシートを作成したので、学部間の連携を図れるよう、合同の研修会を設け、事例生徒のアセスメントシートについて検討した。合同研修会により、アセスメントシートのチェック項目が同じでも生徒に求める内容が異なることがわかり、各学部の作業学習の考え方を知ったり、生活年齢で必要な力についても教師間で共通理解をしたりすることができた。

みどりグループにおいては、児童生徒の実態差が大きく、ひとつの評価表では、児童生徒の実態把握が十分にできないため、発達段階を大きく3つに分け、それぞれのグループごとに児童生徒の実態に合った行動記録評価表の検討をした。その結果、2種類の行動記録評価表を作成し、実践を記録した。(各学部のアセスメントシートの様式、みどりグループの行動記録評価表は資料編に掲載)

## ○全体研修会・授業研究会

全体研修会では、「主体的・対話的で深い学び」「質の高い学び」についての講義を受け、教師間で今年度の実践に向けて共通理解を図った。

### ・第1回全体研修会 令和元年5月28日(火)

『「主体的・対話的で深い学び」について～知的障害児教育における『深い学び』を考える～』

講師 筑波大学附属大塚特別支援学校 主幹教諭 中村 晋 氏

### ・第2回全体研修会 令和元年6月19日(水)

「知的障害のある児童生徒の質の高い学びを考える」

講師 千葉県立楨の実特別支援学校 教頭 佐々木 操 氏

※講義の内容については全体研修会記録(P85～)を参照

授業研究会の分科会では、本校教師の所属学部を超えたグループ編成をし、協議の柱を事前に周知することで、様々な立場からの視点で授業を捉え、意見交換をすることができた。講師からは、児童生徒の姿から教師の支援の在り方や主体的・対話的で深い学びのある授業づくりの考え方、振り返りの方法等について助言をいただいた。

### ・第1回全校授業研究会 令和元年7月5日(金)

小学部 5年生 生活単元学習「夏フェスをしよう」

みどりグループ 小2組(1～5年生) 日常生活の指導「朝の会」

### ・第2回全校授業研究会 令和元年9月26日(木)

中学部 石けん班 作業学習「スマイルフェスタでお店を出そう」～元気よくいらっしやいませ～

高等部 陶芸班 作業学習「スマイルフェスタで完売を目指して製品を作ろう」

※各学部・グループの学習指導案は、各学部・グループの実践例に記載



## VI 研究の成果と課題

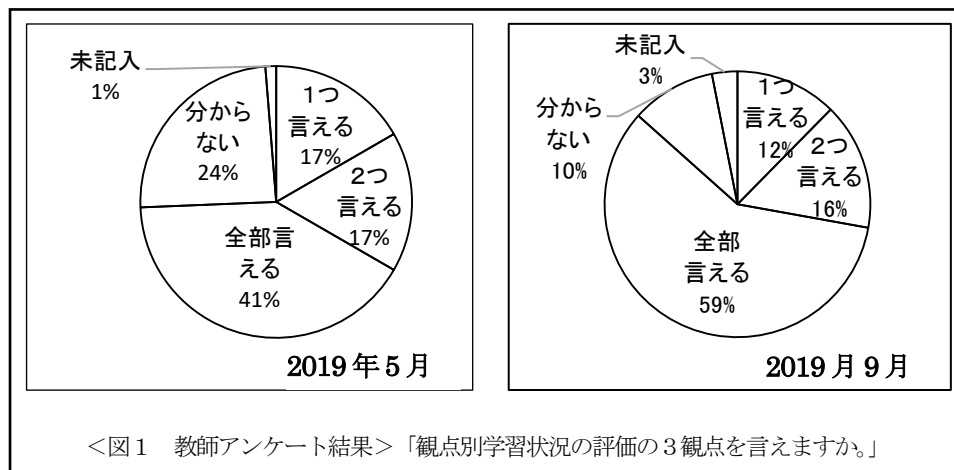
平成29年度より文部科学省の指定を受けた3年間の研究で知的障害のある児童生徒の「質の高い学び」を目指して、①各教科等を合わせた指導に関連する各教科等の内容の明確化と精選を図る②各教科等を合わせた指導において、学部間の系統性を図りながら、一人一人の児童生徒につけたい力を意識した評価の観点を明確にし、評価の在り方を探る、ことをしてきた。これまで知的障害児教育で行われてきた各教科等を合わせた指導は、本校においても教育課程の中心に置かれ、児童生徒に指導してきた。しかし、各教科等を合わせた指導にどのような各教科等の内容が含まれているか、という視点はなく、戸惑いながら研究がスタートした。評価の在り方についても、評価の観点を明確にして評価をするということは新たな試みであり、手探りで研究を進めてきた。以下に、教師の意識の変化、単元記録表、評価表による成果と課題を述べていく。

### <教師の意識の変化>

新学習指導要領の先行研究である本研究を進めるために、1年目から新学習指導要領の内容理解のため研修会を設け、これからの知的障害児教育で目指すこと、大切にすることについて研修に努めた。育成を目指す資質・能力の3つの柱や主体的・対話的で深い学びといったキーワードをどのように捉え（表3）、日々の教育活動に落とし込んでいくのか、実践を積む中で少しずつ見えてきたところである。新学習指導要領の内容理解というところでは、3年目の年度始めと実践後に教師にとつたアンケート結果（図1）からも深まったといえる。

主体的な学び（興味・関心、見通し）	対話的な学び（やりとり、気持ちを伝える）
深い学び（知識を相互に関連づける、自己評価及び振り返り）	

<表3 主体的・対話的で深い学びの考え方（授業づくり表より）>



<図1 教師アンケート結果>「観点別学習状況の評価の3観点を言えますか。」

### <単元記録表>

2年目から取り組んだ単元記録表を使って、どのような関連する各教科等の内容があるのか、児童生徒の学習活動を書き出し、その一つ一つの活動はどのような目的があるのか、教師間で話し合って検証していった。この過程は、新学習指導要領の内容を知るきっかけにもなり、学校の教育活動全般において、どのような各教科等の内容が関連しているかということを考えるようになった。3年目は、単元記録表をツールとして、単元目標、関連する各教科等の内容を授業者間で共通理解することを深め、児童生徒につけたい力を明確にすることで、学習活動や補助具、支援の手立てを整理していった。単元後、授業の振り返りを行うことで、単元の成果と課題を挙げ、次単元の目標設定や授業づくりに生かすことができた。中学部では、作業班内で解決できないことは、学部で話し合う機会を設け、意見交換をしながらアイデアを出し合った。このような実践により、研究構想図の単元記録表のPDCAサイクル（小さいサイクル）が単元を重ねていくこと

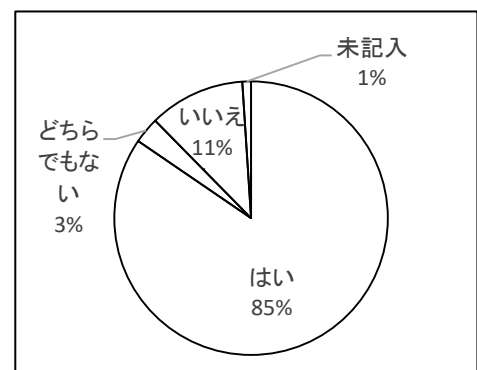
で実現した。小学部では、各教科等内容表を使って、扱っていない各教科等の内容を入れた単元を計画したり、学習活動を工夫したりした。これは研究構想図（P. 3）の大きなPDCAサイクルで、次年度の教育課程にも関わり、カリキュラムマネジメントにつなげることができたと考える。

一方で、2年間の実践における、関連する各教科等の内容の書き出しや精選を通してみると、各教科等の内容を全て扱うということは難しいことがわかった。また、意識して取り組むために各教科等の内容を書き出したものの、評価をするときに児童生徒の変容があまりなかったり、各教科等の内容についての評価も十分でなかったりした。今後は、教科の見方・考え方の視点で各教科等を合わせた指導に関連する各教科を見捉えていくようにしたい。各教科ならではの見方・考え方を児童生徒が身につけていくことは、障害の程度に関わらず、生涯の学びに向かう力、豊かに生活する力につながると考える。

#### <評価表>

単元記録表で単元（授業づくり）の改善を図っていくことと平行して、評価表（アセスメントシート、行動記録評価表）を活用した。育成を目指す資質・能力の観点からのチェック項目で児童生徒の実態把握を行い、単元における個人目標を設定した。目標が明確になることで補助具や支援の手立てが具体的になり、児童生徒の変容を見ることができた。高等部の作業学習では、多くの担任外の教師が関わるため、生徒の変容を即時に記録できるように作業メモを活用した。みどりグループでは、実態差の大きい児童生徒に合わせるために2種類の評価表を作成した。一人一人を丁寧に見ていこうという教師の思いで各学部・グループの評価表は単元ごとに改善され、現在の様式となった。教師が児童生徒につけたい力の視点をもって関わることで、これまで見逃していた児童生徒の様子に気付くことができ、成長や課題が明らかになった。また、アセスメントシートが児童生徒の資料となり、単元の担当と学級担任が児童生徒を理解したり、個別の指導計画に活用できたりした。評価表で目標、学習活動、評価を通して見ることができ、研究構想図のPDCAサイクル（小さいサイクル）を回すことができた。教師へのアンケート結果からも評価表の活用が有効だったことがわかる。（図2）

しかし、本年の児童生徒の成長を1年後、2年後につなげていくという研究構想図の大きなPDCAサイクルを回すことにつなげることまでできていない。児童生徒の12年間の成長の系統性や12年間でどんな力がついたのか（何を学んできたのか）を明らかにしていくことは今後の課題である。今年度作成した各教科等内容表は、何を学んだかが視覚的にわかるようになっている。各教科等内容表を活用しながら、12年間の学びの地図を描けるようにしていきたい。



<図2 教師アンケート結果>「評価表の記述により児童生徒の理解が深まったか。」

#### 3年目は、研究テーマにある「質の高い学び」を目指す方法

として、「主体的・対話的で深い学び」の視点を授業づくりに取り入れた。具体的には、授業内に振り返りの時間を設けるようにし、授業に児童生徒の本時の目標設定→活動→評価の流れを組み込み、児童生徒の実態に合わせて自己評価や他者評価、即時評価等評価の方法の工夫をした。この実践が授業改善につながった。教師が「主体的・対話的で深い学び」の視点をもって児童生徒を見つめたり、学習内容を考えたりする実践を重ねることで、児童生徒の行動からの気付き、内面の変化を想像する力が育まれた。そのことを共有することで教師全体の意識の向上が見られた。児童生徒の「質の高い学び」には、教師の「質の高い支援」が必要だということが分かった。今後も単元記録表・評価表の改善を図りながら、児童生徒の「質の高い学び」と教師の「質の高い支援」を目指していきたい。